

名原会ニュース

平成29年 7月31日

○ 特別寄稿	1
新エネルギー理工学教室の発足に向けて		井口 哲夫
新任のご挨拶		渡邊 清政
就任のご挨拶		久保 伸
○ 活動報告	5
量子エネルギー工学教室五十周年記念式典・記念祝賀会		
卒業生との集い		
原子力オープンスクール		
○ 教室の近況	9
職員の異動		
教室の構成		
○ 研究室便り	11
○ 会員の声	19
着任のご挨拶		井戸 毅
新任のご挨拶		恒吉 達矢
定年のご挨拶—新たなるチャレンジ		有本 英樹
近況報告		田淵 将人
○ 核院会便り	24
○ お知らせ	25
名原会ホームページ URL 変更のお知らせ／会費納入のお願い／各		
種証明書の請求について／名簿記載内容の変更・訂正／宛名ラベル		
の提供／ニュース掲載記事募集／個人情報の取扱について／原子核		
工学教室・量子エネルギー工学教室『五十年誌』の配布について		
○ 会計報告	27
○ 編集後記	27

特別寄稿

新エネルギー理工学教室の発足に向けて

井口 哲夫

平成 29 年 4 月より、実質 3 年越しで実現された名古屋大学工学部・工学研究科の大幅な改組に伴い、これまでの工学部物理工学科量子エネルギー工学コース、及び工学研究科マテリアル理工学専攻量子エネルギー工学分野、エネルギー理工学専攻、量子工学専攻のメンバーからなる（旧）原子核・量子エネルギー工学教室は、新たに工学部エネルギー理工学科、及び工学研究科エネルギー理工学専攻・総合エネルギー工学専攻の（新）エネルギー理工学教室へと再編された。

この改組は、文部科学省から求められた大学が担うべき学術分野の「ミッションの再定義」の意向に沿うもので、社会的ニーズや今後の発展性が高い分野の教育・研究を強化することに視点が置かれている。そこで、当教室の選択したミッションは、エネルギーに関連する様々な課題について先端的な基礎研究や基盤的な技術開発から社会に役立つ総合工学にわたる広い範囲で教育・研究を行うこととし、それが新学科・専攻の名称に反映されている。部局内では相変わらず最小規模の学科・専攻であるが、コアとなる 9 つの工学系基幹講座とともに、未来材料・システム研、アイソトープ総合センター、核融合科学研究所の先生方の親密な支援を受け、その存在感を堅持できており、若い先短い身ながら、この新学科・専攻の初代学科長・専攻長を拝命したことは、大変光栄の限りである。

さて、小職は、「原子力工学」を志して大学に奉職してから今年で概ね 36 年になるが、その間、世相に翻弄されて、今回で所属した学科・専攻の名称変更は 6 回目となる。実は、本来なら、「原子核」はともかく、「量子」というキーワードを学科・専攻名に残したかったが、社会の受け入れ易さを強調される若手教授陣のご意見もむべなるかなと思い、同意した次第である。ただ、少なくとも初年度の当学科・専攻への入学志願者や興味を示す高校生の数を見る限り、この名称変更は悪くなかったという手応えは感じている。

最後に、この新学科・専攻の基盤強化とさらなる発展、特に当教室の母体である旧原子核・量子エネルギー工学教室を卒業された方々のこれまでと変わらぬご支援を願って、当教室最長老として遺言のようなものを 2 つ残す。

- ① 新学科・専攻の名称に対し、「名は体を表す」と言えるよう、これまでの良き伝統を残しつつ、海外を含む学内外の連携を強化することで教育・研究体制の充実と差別化を図っていただきたい。
- ② コンパクトな規模の学科・専攻の特長を活かし、迅速な意思疎通や柔軟かつ臨

機応変な行動で，常に斬新で先陣を切るような教育・研究活動に積極的に取り組んでいただきたい。

以上，小職も限られた時間ではあるが，本名原会に属される方々から賞賛や自慢していただけるような新学科・専攻を目指して努力していく所存である。

新任のご挨拶

渡邊 清政

平成 29 年 4 月の工学部・工学研究科の改組に伴い、旧エネルギー理工学専攻の客員講座より、エネルギー理工学専攻・エネルギー流体工学講座に異動してきました。本籍は、自然科学研究機構・核融合科学研究所で、専門は核融合炉心プラズマです。

高校卒業まで、鹿児島県の奄美大島という離島で過ごしました。高校時代に読んだ本がきっかけで、核融合研究に携わることを夢見て、京都大学工学部原子核工学科に入学しました。卒論、修論、博士論文は、ヘリオトロン核融合センターの若谷誠宏先生の指導の下、「電場、プラズマ流、電流がヘリオトロンプラズマに与える影響」について数値シミュレーションを使った研究を行いました。博士後期課程終了後、核融合科学研究所に採用され、通称「本体グループ」に所属しました。「本体グループ」は、LHD(大型ヘリカル装置)の磁場発生部、プラズマ閉じ込め容器等の LHD 本体の製作を担当するグループです。そのグループで、初期はシミュレーションコードを利用してプラズマ性能の面から LHD 本体の詳細設計の妥当性の確認作業に従事し、後期は超電導コイルを冷却するための液体ヘリウムの流量を制御するヘリカルバルブボックスの製作管理等を主として行いました。装置自体を自分で作るわけではなかったのですが、設計の妥当性や現場での細かい仕様の変更の承認などを行う必要があります。液体ヘリウム冷却に関して素人の私は、研究所の専門家から一々助言を受けながら対応していました。LHD の最初の運転で、超電導コイルが規定温度まで冷却できた時は、非常に感慨深い思いをしたことを覚えています。LHD 完成後は、LHD 実験グループに所属し、経済的な核融合発電炉に必須な高ベータ(=プラズマ圧力/磁気圧力)プラズマの生成・維持法の開発や高ベータプラズマ達成や長時間維持に大きな障害となる電磁流体力学的(MHD)平衡特性や不安定性に関する研究に携わっています。その成果として、2006 年度の LHD 実験で、経済的な核融合炉の指標となるベータ値 5% をヘリカル型プラズマとして世界で初めて達成しました。その傍ら、核融合科学研究所に併設された総合研究大学院で大学院生の教育にも携わり、2012 年度からは、連携大学院である名古屋大学でも大学院教育にも参加させていただいています。

核融合開発が成功すれば、環境への負荷の低く、ほぼ無尽蔵なエネルギー資源を人類は手に入れることができます。一方、核融合炉は、世界中でオープンな研究開発が始まってから 60 年がたち、更に、実用化には、30~50 年かかると謂われる開発に時間がかかる典型的な研究分野です。だからこそ、大学での持続的な人材育成が必要であり、その一翼を名古屋大学で担えれば、と考えています。今後とも、皆様からのご教示・ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

就任のご挨拶

久保 伸

平成 29 年 4 月 1 日付けで名古屋大学工学研究科総合エネルギー工学専攻の客員教授に就任致しました。専門はプラズマ理工学です。

愛媛県松山市に生まれましたが、記憶は大阪から始まります。京都大学（理学部）に入学し、幸運にも（？）特定の学科を選択する必要がなかったため、最初は無謀にも数学を志したのですが、一ヶ月で見事に落ちこぼれ、次に地球物理、最終的には物理を主に勉強しました。大学院ではプラズマ物理を専攻し、マイクロ波とプラズマの相互作用を用いたプラズマの計測を扱い始めたのがきっかけで、以来、40 年近く数メガヘルツからサブテラヘルツまでの広い周波数領域を扱ってきましたが、その時々には扱ったプラズマ閉じ込め装置の磁場強度に応じた電子サイクロトロン周波数付近にスペクトルのピークが存在します。広い意味で、電磁波とプラズマの相互作用の研究を継続していることとなります。

1984 年に名古屋大学プラズマ研究所に職を得て、1996 年に核融合科学研究所として土岐に移転するまで、12 年間旧原子核工学教室（現、工学部 6 号館）の前を文字通り「素通り」してプラズマ研究所に通いました（昨年、改組のご相談で初めて建物の中に入れていただきました）。その後、土岐で大型ヘリカル装置（LHD）の電子サイクロトロン加熱の装置開発研究と加熱実験研究を主に行なっております。最近、この加熱装置の特性を生かして計測に応用する試みも進めております。

2010 年度から、再び縁があって、名大の旧エネルギー理工学専攻の客員として大学院教育に携わる機会をいただき、若い人達と研究する難しさ、楽しさを感じておりましたところ、この度、さらに学部の学生さんとも接する機会を与えていただけることになり、ワクワクしております。とはいえ、大学院教育、学部教育においては、まだまだ分からない点、未熟な点が多いと思います。皆様のご鞭撻・ご教授のほど宜しくお願い申し上げます。

活動報告

1. 量子エネルギー工学教室五十周年記念式典・記念祝賀会

平成 28 年度教室主任 山本章夫

○概要

2016 年 12 月 3 日(土)午後、名古屋大学の野依学術記念交流館にて、量子エネルギー工学教室(旧原子核工学教室)の創立五十周年の記念式典・記念祝賀会が実施されました。本式典・記念祝賀会にご参加いただいた方は、ご来賓、教室関係者を合わせ約 120 名でした。

○記念式典

14 時から 16 時まで、二階のカンファレンスホールにおいて長崎先生の司会により、五十周年の記念式典が実施されました。長崎先生による開会宣言、主任(山本)の挨拶のあと、ご臨席いただいた新美智秀工学研究科長、松下裕秀理事・副総長からご祝辞をいただきました。新美先生からは、来年度の工学部・工学研究科の改組に合わせ、現在の物理工学科量子エネルギー工学コースがエネルギー理工学科に再編されること、原子力界の情勢は厳しいものがあるが、エネルギーセキュリティや安全の確保の観点から、人材育成に期待しているとのお話をいただきました。また、松下先生からは、ご自身の研究分野が中性子を用いたものであり、原子力利用にかかわる形で研究を行ってきたこと、また、今後の原子力利用にあたっては、しっかりとした研究・人材育成が重要であるとのお話をいただきました。

教室の近況報告として、山本から、量子エネルギー工学教室のこれまでの歴史を振り返るとともに、今後の教室の運営、工学部・工学研究科の改組、改組後のエネルギー理工学科・エネルギー理工学専攻/総合エネルギー工学専攻の運営方針などについて説明いたしました。また、当教室のルーツである原子力と本教室の関わり合いについて説明し、社会情勢によって、原子力利用、ひいては当教室における原子力の取り組みが変遷してきたこと、2017 年 4 月に発足するエネルギー理工学科では、原子力をエネルギー発生手段の一つと捉え、より広い文脈でエネルギーに関する研究・教育をカバーする予定であることを報告させていただきました。

次に、本教室 OB の名古屋大学名誉教授の森千鶴夫先生、中部電力浜岡原子力発電所所長の伊原一郎様、北海道大学名誉教授・名古屋大学特任教授の鬼柳善明先生から記念講演をしていただきました。

森先生からは、放射線利用にかかわるこれまでの幅広いご研究のうち、イメージングプレートを用いた放射性物質の可視化、手作り放射線検出器の開発、キュリー夫人の実験ノートの放射性物質付着状況の調査など、多岐にわたり知的好奇心を掻き立てるご講演をいただきました。また、学生にしっかり講義内容を伝えることの重要性について述べられるとともに、自由闊達な発想で研究・教育を進めることの重要性を述べられていたことが印象的でした。

伊原様は、学生時代に取り組みれていたアメフトに関する思い出話など当時のバンカラぶりを彷彿とさせるお話をしていただきました。ご講演でお見せいただいた様々な証拠写真が臨場感を盛り上げていたように思います。ご講演を聞きながら、昔のことに思いを馳せた参加者の方も多かったのではないのでしょうか。また、エネルギー源としての原子力発電の重要性に触れられ、この技術を安全に運用していくためには人材が不可欠であり、継続して志のある人材を育成していただきたいとお言葉をいただきました。

鬼柳先生は、名古屋大学と北海道大学の比較論を展開され、規模的に似ていること、また、北大は地理的に隔離されており、名大は中部圏が独自の文化圏を築いていることから、両大学は外的環境に比較的影響されにくく、独創的な研究を行える環境にあるのではないかとお話がありました。また、関連して、大学改革が早く一段落し、落ち着いて研究・教育を行える環境が整うことが望まれることを述べられ、その通りであると思いを抱きました。現在取り組まれている加速器中性子源の開発に関連し、他(多)機関との連携が重要であり、これが研究を発展させる原動力になるとの話は、我々の教室の運営にとって、重要な示唆であったのではないかと思います。

最後に、山本から出席者の方々へのお礼を申し上げ、式典をお開きにさせていただきました。

○記念祝賀会

記念式典に引き続き、16時30分から18時30分まで一階の会議スペースにて山澤先生の司会のもと、記念祝賀会を行いました。冒頭に曾田先生が挨拶され、引き続き相良先生(名原会会長)に乾杯の音頭を取っていただきました。相良先生からは、海外の学会などでは女性の学生が大活躍していること、従って本教室の女子力を高めるようにとのご助言をいただきました。

記念祝賀会では、昔なじみの顔同士で談笑が弾み、あっという間に2時間が経過したのではないかと印象でした。

最後に、来年度、初代のエネルギー理工学専攻の教室主任になる予定の井口先生が挨拶され、引き続き教室の発展に努力することと記念祝賀会を締めくくっていただきました。

○最後に

今回の五十周年記念式典は、天候にも恵まれ、約120人という多くの方にご参加いただき、皆様のおかげをもって無事終了したものと考えています。どうもありがとうございました。お帰りの際、今回の事業にあわせて編集した教室の五十年誌および2017年4月に発足するエネルギー理工学科のパンフレットをお渡しいたしました。帰路でお読みになった方も多かったものと推察しております。

記念式典・記念祝賀会でいただいたご意見、叱咤激励を取り入れつつ、教室の運営をしていくとともに、皆様におかれましては、引き続き本教室のご支援を賜りますようお願いいたします。

○記念祝賀会会計報告

<収入>

会費	7,000 円×99 人	=	693,000 円
ご寄付			10,000 円
合計			703,000 円

<支出>

飲食費	684,000 円
合計	684,000 円

<収支>

残額	19,000 円
----	----------

※残額については、当教室の成績優秀者の表彰に使用させていただきます。

○当日の写真



入り口(野依学術交流館)



記念講演の一コマ



記念祝賀会 1



記念祝賀会 2

2. 卒業生との集い

平成29年2月20日(月)工学部5号館2階521講義室にて「卒業生との集い」が開催されました。14の企業・団体から卒業生が15名、本学学生が28名、教職員2名の合計45名が参加をいたしました。

本会は平成14年の第1回から数えて13回目の開催となりました。毎年のように盛況に執り行えますのも諸先輩方のおかげでございます。近年はわが国のエネルギー産業を取り巻く環境が大きく変わりつつあり、とりわけ原子力分野においてはまだまだ厳しい状況が続いております。今回はフロントエンドからバックエンドまで、さまざまな事業に携わっておられる先輩方がその取り組みについてご講演くださり、学生たちも真剣に耳を傾けておりました。また、原子力以外の分野にてご活躍されている先輩方も参加していただき、盛況の内に幕を閉じることができました。

本教室は工学部再編によって新たな門出を向かえ、本年度からは「エネルギー理工学科」として教育・研究活動に邁進してまいります。今年度以降も「卒業生との集い」は継続して行ってまいりますので、今後ともご支援、ご参加くださいますようお願い申し上げます。



講演会の様子

3. 原子力オープンスクール

2016年度も名古屋栄のでんきの科学館にて、原子力オープンスクールを開催しました。できるだけ多くの方に参加していただけるよう、今年度は、でんきの科学館のホームページで事前告知を行い、例年1フロア(3階)で実施していた形態から、全フロア(1階から4階まで)を利用した形態に変更したほか、各研究室の協力をいただき、展示テーマの数を9から11に増やしました。その結果、約500名の児童がスタンプラリーに参加し、保護者も含めると多数の来場者がありました。2017年度も引き続き実施いたします。ご協力をいただきました関係者のみなさまに深くお礼申し上げます。



展示の様子(1階にて)

教室の近況

1. 職員の異動

上野 裕 転出（東京大学へ）

（平成 28 年 8 月 31 日）

有本 英樹 定年退職（4 月 1 日付で核融合工学講座に非常勤雇用）

（平成 29 年 3 月 31 日）

恒吉 達矢 助教に着任（エネルギー流体工学講座）

（平成 29 年 4 月 1 日）

佐藤 陽祐 助教に着任（エネルギー安全工学講座）

（平成 29 年 5 月 1 日）

池永 英司 准教授に着任（未来材料・システム研究所）

（平成 29 年 6 月 1 日）

2. 教室の構成

平成 29 年 4 月の工学部・工学研究科の改組に伴い、教室の構成が変わりました。平成 29 年 7 月 1 日現在の研究グループの教員構成は下記のようになっています。なお、曾田研究室および武藤研究室は、物理工学科・物質科学専攻所属に変わりました。（旧学科・専攻の入学者が卒業するまでは量子エネルギー工学コース・分野の教育に携わります。）

エネルギー理工学科・エネルギー理工学専攻

<エネルギー材料工学講座>

エネルギー機能材料工学グループ

教授：長崎正雅， 准教授：山田智明， 柚原淳司， 助教：吉野正人

エネルギーナノマテリアル科学グループ

教授：尾上 順， 准教授：中谷真人， 助教：渡邊真太

エネルギー環境材料工学グループ

教授：八木伸也， 准教授：池永英司， 助教：小川智史

<エネルギー量子工学講座>

エネルギー量子計測工学グループ

教授：井口哲夫， 准教授：富田英生， 特任助教：Volker Sonnenschein

応用核物理学グループ

教授：柴田理尋， 准教授：小島康明

<エネルギー流体工学講座>

エネルギー熱流体工学グループ

教授：辻 義之， 准教授：伊藤高啓， 助教：恒吉達矢

エネルギー電磁流体工学グループ

教授：渡邊清政

エネルギー理工学科・総合エネルギー工学専攻

<核融合工学講座>

核融合プラズマ理工学グループ

教授：藤田隆明， 准教授：岡本 敦

核融合炉工学グループ

教授：久保 伸， 准教授：井戸 毅

<エネルギーシステム工学講座>

エネルギー資源循環工学グループ

教授：榎田洋一， 准教授：澤田佳代， 杉山貴彦

原子核計測工学グループ

教授：瓜谷 章， 准教授：渡辺賢一， 吉橋幸子， 助教：山崎 淳

<エネルギー安全工学講座>

エネルギー環境安全工学グループ

教授：山澤弘実， 准教授：森泉 純， 助教：佐藤陽祐

原子核エネルギー制御工学グループ

教授：山本章夫， 助教：遠藤知弘

研究室便り

『講座名』 Tel/Fax 052-789-XXXX

担当教員 (◎：教授，○：准教授，□：講師，無印：助教)

エネルギー材料工学講座（エネルギー理工学専攻）

『エネルギー機能材料工学グループ』 3607, 3792, 4689/4691, 3779

◎長崎 正雅，○袖原 淳司，○山田 智明，吉野 正人

6号館へ居室を移し工学研究科・長崎研究室となり，5年目となりました。新エネルギー分野への応用を念頭に，量子ビームを用いた材料の創製，表面・界面の評価，機能性薄膜・ナノ構造の創製，材料中の原子やエネルギーの移動の解析，などの研究を行っています。

「卒業生の皆様へ・・・」

今年度も，B4 が 4 名，M1 が 6 名，M2 が 4 名，D が 2 名の総勢 16 名の大人数となりました。中国から新たに留学生を迎え，短期ではありますがバングラデシュからも留学生が来るなど，国を越えた交流に刺激を受けています。また研究だけではなく，研究室でサイクリングやリレーマラソンへの参加を目指した練習などの課外活動も行い，学年を越えた交流をしています。学生間だけでなく教員との距離も近い，明るくにぎやかな研究室となっていますので卒業生の皆様，名古屋にお越しの際には，ぜひお立ち寄りください。

エネルギー材料工学講座（エネルギー理工学専攻）

『エネルギーナノマテリアル科学グループ』 3783, 3784, 3785

◎尾上 順，○中谷 真人，渡邊 真太

名古屋大学での研究活動を開始してから今年度で 4 年目を迎えました。物理・化学・数学・材料科学・ナノテクノロジー・計算科学を駆使して，ナノ炭素を含む新奇ナノ物質およびナノシステムを創製し，これらを，高効率な光電変換あるいは熱電変換機能を有するエネルギー変換機能材料やCO₂固定化・廃棄物処理などの環境制御・原子力基盤技術へ応用することを目標に研究活動に取り組んでおります。さらに，以上の研究を通して21世紀の安全かつ持続発展可能な社会構築に中心的な役割を果たす人材を育成することにも力点を置いております。

「卒業生の皆様へ・・・」

本年度は 4 名の新メンバーが加わり，教員：3 名，PD：1 名，D2：1 名，M2：4 名，M1：4 名，B4：3 名の総勢 16 名となりました。研究室は工学部9号館（西棟）4階および原子核特別第一実験棟に所在しております。共に名古屋大学内では標高の高い場所に位置しておりますが，それ以上に高いモチベーションをもって日々精進しております。研究室へのアクセスにやや難があり恐縮ですが，お近くにお越しの際には是非ともお立ち寄り下さい。

エネルギー材料工学講座（エネルギー理工学専攻）

『エネルギー・環境材料工学グループ』

未来材料・システム研究所 『高度計測技術実践センター X線分光計測部』

052-747-6828（八木）/052-789-5893（池永）/
052-789-5862（小川）/052-789-5855（学生部屋）

◎八木 伸也，○池永 英司，小川 智史

“環境材料の創製とその物性評価”というテーマのもとに、持続可能なエネルギーシステムの実現に不可欠な機能性材料の開発と評価を行っております。主に金属ナノ材料の作製と、赤外から硬X線までの様々な波長の光を用いた物性評価を行っており、物理学・化学・生物学といった垣根にとらわれない研究活動を推進しています。

「卒業生の皆様へ・・・」

今年度6月1日に池永英司准教授が当研究室にご着任されました。さらに学外からM1が1名、B4が3名加わり、今年度の八木研究室は教員3名、博士課程学生1名、修士課程学生1名、学部4年生3名の計8名の構成となっております。お近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。また、八木研究室のHPが公開されましたので (<https://yagishinya.wixsite.com/yagilab>)、そちらもぜひご覧ください。

エネルギー量子工学講座（エネルギー理工学専攻）

『エネルギー量子計測工学グループ』

4680/5127

◎井口 哲夫，○富田 英生，フォルカ ソンネンシャイン

私たちの研究グループでは、電子やイオン、エックス線・ガンマ線・中性子などのエネルギー量子がもたらす情報を、最先端のハードウェア及びソフトウェアを駆使して、多次元かつ高精度に計測するための革新的なシステム開発及び、量子ビーム計測応用への展開に取り組んでいます。

「卒業生の皆様へ・・・」

今年度はD1：1名、M2：3名、M1：5名、B4：3名の総勢12名の学生で研究生活を送っております。昨年と比べると3人少ないですが、例年通り仲良くにぎやかな雰囲気は変わらず毎日精力的に研究しています。また核院会のスポーツイベントでは研究室一丸となって参加し、昨年度はソフトボール大会で見事優勝することが出来ました。本年度もソフトボールでは2連覇を目指し、チームワークの良さを発揮したいと思っています。

OB会もゴールデンウィークと年度末に開催しておりますので、奮ってご参加いただきますよう、よろしくお願いたします。また、お近くにお越しの際には是非とも研究室にお立ち寄りください。井口研一同、心よりお待ちしております。

エネルギー量子工学講座（エネルギー理工学専攻）

『応用核物理学グループ』

アイソトープ総合センター

2569/2572

◎柴田 理尋，○小島 康明

原子核の核構造および崩壊様式の解明を行うことで、核データベースの構築を目指しています。そのために、京都大原子炉や原子力機構の加速器に設置されたオンライン同位体分離装置などを使い、不安定核に対する β 線および γ 線計測を行っています。

「卒業生の皆様へ・・・」

M2：2名，M1：1名，B4：3名のメンバーで研究活動を行っています。研究室内の様子に変わりはないですが、アイソトープセンターの旧館が取り壊され、新しい建物の建設工事が進んでいます。完成予定は今年の8月で、夏以降の居室は新棟になり、研究室も広くなる予定ですので、研究活動もさらに活発になるのではないかと期待されます。

工事の関係上少し騒がしい日もありますが、名古屋にお越しの際はぜひお立ち寄りください。

エネルギー流体工学講座（エネルギー理工学専攻）

『エネルギー熱流体工学グループ』

4693/4692

◎辻 義之，○伊藤 高啓，恒吉 達矢

今年度4月の改組にあたり研究室名も一新され、流動や熱輸送の観点からエネルギーシステムの安全性と経済性の向上を目指した研究を、実験、数値解析の両面からすすめています。長年取り組んできた原子炉配管減肉の流動加速腐食の研究ではこれまでに得られた知見を応用して円管乱流の解明など新たなステージへ発展させています。また、流れが作る音（流体音）の解明や、壁面乱流、プラズマ不安定挙動、流体の常識とはかけ離れた振る舞いを示す量子流体（超流動ヘリウム）の挙動、沸騰熱輸送、液膜不安定化挙動や三相接触線挙動といった新たな知見を広める研究もおこなっています。研究室外の組織と共同で進めるテーマも増え、研究の幅を広げています。

「卒業生の皆様へ・・・」

昨年度は数値流体解析を専門とする恒吉先生が当研究室で博士号取得し、当研究室に引き続きスタッフとして在籍することになりました。また、中国からの留学生（修士課程）が一人加わって留学生が3名（中国2名，エジプト1名）となり、学生・スタッフともども研究、文化とさまざまな談義に花を咲かせています。活動状況はホームページにも随時掲載しておりますので、時間がありましたらご笑覧下さい (http://www.ees.nagoya-u.ac.jp/~web_dai2/)。名古屋にお越しの際には、是非、本研究室にもお立ち寄りください。メンバー一同、心よりお待ちしております。

エネルギー流体工学講座（エネルギー理工学専攻）

『エネルギー電磁流体工学グループ』

0572-58-2149

◎渡邊 清政

核融合科学研究所（岐阜県土岐市、以下、核融合研）の研究職員が名古屋大学の客員教員を務める大学院連携講座の一つで、主に、核融合研の大型ヘリカル装置（LHD）とスーパーコンピュータを使って、電磁流体である核融合炉心プラズマの安定的な閉じ込めと、経済的な核融合発電炉に不可欠な高ベータプラズマの生成・維持方法の開発研究を行っています。また、電磁流体をキーワードに、量子科学技術研究開発機構や各大学の核融合実験装置と共同で、デストラクション現象や磁気島の発生機構の研究も行っています。

「卒業生の皆様へ・・・」

平成29年度の工学部・工学研究科組織改革により、旧エネルギー理工学専攻から移動して参りました。所属する学生は、現在、M1が1名と最小構成ですが、我々の研究内容と、核融合研の研究者が研究指導をサポートするというユニークさをアピールして、エネルギー理工学系の学生教育に今後積極的に貢献したいと考えています。核融合発電に興味のある方は、名古屋から少し足を延ばして、世界最大級の超電導コイルを使った核融合実験装置であるLHDを是非見学してください。

核融合工学講座（総合エネルギー工学専攻）

『核融合プラズマ理工学グループ』

4593/3935

◎藤田 隆明，○岡本 敦

「地上の太陽＝核融合炉」のエネルギーを実現するために、（1）小型装置によるプラズマ閉じ込め実験と大型装置プラズマ実験の解析、および（2）核融合炉のシステム設計と核燃焼プラズマ解析の研究に取り組んでいます。平成28年11月に直線型プラズマ実験装置 NUMBER のプラズマ生成に成功し、本格的な実験を開始しました。平成29年4月に TOKASTAR-2 実験装置では 16ch ポロイダル磁気プローブアレイを新設しました。装置の整備によるプラズマ閉じ込め実験のさらなる進展が期待されます。

「卒業生の皆様へ・・・」

平成29年3月に、有本助教が定年退職されました。3月26日に工学部8号館を会場として有本先生の退職パーティーが開催され、多くの卒業生が集まりました。実験室や学会発表ポスターを見ながら、卒業生の皆さんは在学当時のことを懐かしく思い出しておられたようです。有本先生には4月からは技術補佐員として実験をサポートいただいております。現在、学部4年生が2名、M1が3名、M2が6名、D1が1名で、教職員を含めて15人のスタッフです。卒業生の皆様、名古屋に来られた折にはご遠慮なくお気軽に研究室にお立ち寄りください。また、皆様からの後輩へのご支援・ご要望などございましたらお知らせ頂ければ幸いです。

核融合工学講座（総合エネルギー工学専攻）

『核融合炉工学グループ』

0572-58-2199/2179

◎久保 伸, ○井戸 毅

本年度からエネルギー理工学科, 総合エネルギー工学専攻の客員研究室となりました。

研究室は自然科学研究機構・核融合科学研究所内にあり, 核融合炉の実現を目指し, 主に大型ヘリカル装置(Large Helical Device:LHD)を用いて研究を行っています。特に本研究室では, 加熱装置及び計測装置の開発を通じて, 高性能プラズマを生成し, その複雑な物性を明らかにすることを目指しています。

「卒業生の皆様へ・・・」

昨年度まではエネルギー理工学専攻の研究室でしたが, 本年度の改組により, 総合エネルギー工学専攻の研究室になりました。現在, 博士課程 2 名, 修士課程 2 年 2 名(エネルギー理工学専攻), 修士課程 1 年 3 名, 学部 4 年 1 名の総勢 8 名となり, にぎやかになりました。今年度から LHD では重水素実験が始まり, 研究が新しい段階に進んでいます。機会がありましたら, ぜひ研究室にお立ち寄りください。また, 夏には恒例のテニス合宿も行いますので, こちらもぜひご参加ください。

エネルギーシステム工学講座（総合エネルギー工学専攻）

『エネルギー資源循環工学グループ』

3602/5936

◎榎田 洋一, ○澤田 佳代, ○杉山 貴彦

私たちの研究グループは, 核分裂エネルギーや核融合エネルギーの利用のための総合基盤となる燃料サイクル・システムを実現することが最終目標であり, これに必須となる実用工学技術の設計および開発を目的としております。エネルギー変換には負の遺産であるエネルギー廃棄物の発生を伴いますので, その正統な管理(処理・処分・資源循環)技術の開発が重要です。特に, 原子力エネルギー利用に伴う放射性廃棄物管理の研究に精力を注いでいます。

「卒業生の皆様へ・・・」

今年度の榎田研究室を構成するメンバーは, 新たに学部生 3 名を迎え入れ, B4 が 3 名, M1 が 1 名, M2 が 2 名, 教員 3 名に加え, 技術補佐員の水野さんとなっております。現在の榎田研究室の所在は, 工学研究科 8 号館南棟 3 階となります。平成 23 年度より, 榎田研究室と前身としての山本一良研究室の二つの研究室は統合され, 新しい一つの榎田研究室となっておりますので, 榎田研究室の卒業生の皆様, 山本一良研究室の卒業生の皆様, 各位, 名古屋にお越しの際は, 是非ともお立ち寄り下さい。

エネルギーシステム工学講座（総合エネルギー工学専攻）

『原子核計測工学グループ』

3797/3843

◎瓜谷 章, ○渡辺 賢一, ○吉橋 幸子, 山崎 淳

中性子用新規シンチレータの高度利用法の開発, 新型放射線検出器および測定法の開発, 放射線治療時の線量評価法の開発, 超短パルスレーザーなどに関する研究を進めています。また研究室のHPも随時更新しております。是非ご覧ください。(瓜谷研究室HP: <http://www9.nucl.nagoya-u.ac.jp/>)

「卒業生の皆様へ・・・」

今春は四年生が4名さらにM1も2名加わり, D1が1名, M2が5名, M1が6名, B4が4名と合わせて学生総勢16名となりました。定期飲み会を重ねるごとに新加入の学生も研究室の雰囲気慣れ, すっかり瓜谷研の学生らしくなっています。お昼休みにはみんなで食堂に行くなど, 毎年同様仲良くにぎやかに過ごしています。また, 今年度, 加速器中性子源施設が建設され, より幅の広い研究ができる環境となる予定です。これらのように, より快適な環境で楽しく研究生活を送っています。ぜひ機会がありましたら, 研究室や飲み会などにご参加下さい。メンバー一同心からお待ちしております。

エネルギー安全工学講座（総合エネルギー工学専攻）

『エネルギー環境安全工学グループ』

3781/3782

◎山澤 弘実, ○森泉 純, 佐藤 陽祐

エネルギー生産・消費にともなう種々の環境問題について関連物質の動態把握・予測, 放射線被曝防護を中心課題として, 野外観測, 室内実験, 数値シミュレーションを駆使して研究しています。大気や地表面などの環境中での汚染物質や放射性物質の発生, 移流・拡散, 除去プロセスの解明を目指した研究, 大気中および地表面の放射性核種濃度のモニタリング手法に関する研究, 放射性エアロゾルの屋内動態に関する研究を進めています。

「卒業生の皆様へ・・・」

5月に佐藤陽祐助教が着任しました。特に大気輸送数値計算に関する研究とエアロゾルの科学の研究について新たな展開が期待されます。研究室もまた賑やかになってきましたので, 名古屋大学にご用の際など, 気軽にお立ち寄りください。

エネルギー安全工学講座（総合エネルギー工学専攻）

『原子核エネルギー制御工学グループ』

3775/3608

◎山本 章夫, 遠藤 知弘

原子炉物理学, 統計学の理論に基づいて, 計算機シミュレーションを駆使することで, 炉心解析における不確かさの評価や不確かさ低減の研究等を行っています。また, 福島第一原子力発電所の廃炉に関する研究(デブリの分布評価, デブリ取り出し時の

未臨界度監視手法の開発)や原子力発電所の廃止措置に関する研究も行っております。個々の学生が多岐にわたる研究テーマに取り組んで成果を挙げるとともに、日本原子力学会やアメリカ原子力学会の年会・大会をはじめとした学会発表にも積極的に参加しています。

「卒業生へ・・・」

今年度は山本章夫先生と遠藤知弘先生の下、秘書 1 名、D1 が 1 名、M2 が 3 名、M1 が 3 名、B4 が 3 名の総勢 13 名(社会人 Dr.を除く)で、日々研究などに精進しています。昨年度末にこれまで学生室を牽引してくださっていた先輩方のご卒業され、新年度は新たに B4 の学生 3 名が研究室に加わりました。今年度もユニークな人材が揃い、研究室には新たな風が吹き、新年度をスタートしています。

研究室の詳しい様子は山本研究室のホームページから見るすることができます。メンバーのプロフィール等を更新していますので、是非そちらもご覧ください。

現在、当研究室がある工学部 5 号館は名古屋大学駅からすぐになっており、名古屋大学駅からアクセスがしやすくなっております。名古屋へお越しの際は、ぜひともお立ち寄りください。皆様のご来訪を研究室一同お待ちしております。

ナノ解析物質設計学講座（物質科学専攻）

『量子ビーム物性工学グループ』

4683/5155

◎曾田 一雄，加藤 政彦

表面界面ナノ構造における量子効果を中心とした新しい機能材料の開発に向け、放射光やイオンビームなどの高エネルギー量子ビームを用い、熱電材料や水素吸蔵材料などの機能材料の原子配列・電子構造と物性や反応を研究しています。

「卒業生の皆様へ・・・」

曾田研究グループは、学生（MC：7名，B4：5名）、教員ともども、学内イオンビーム表面解析装置を中心に種々の加速器施設へ飛び回りながら、学業と研究に励んでいます。産学行政一体となって整備した放射光施設「あいちシンクロトロン光センター」も、平成24年度に稼動開始となり、真空紫外線から軟X線領域のビームライン整備に力を注いでいるところです。イオンビーム表面解析装置室では、平成26年度の改修工事にともない、加速器2台（バンデグラフ加速器，イオン注入器）が故障してしまいました。そこで、平成28年までかかっていた修理もほぼ終了しました。バンデグラフ加速器は、以前のような200万ボルトの加速電圧とはいきませんが、研究には十分利用することができ、曾田研究室をはじめ他学科の研究室に利用されています。

曾田研究グループの研究室は5号館5階、イオンビーム表面解析装置室とユーザー控え室は原子核第一実験棟です。先輩の皆様には、ぜひ、研究室へ来て元気な顔を見せ、後輩の活躍にエールと将来のアドバイスを送ってください。皆様のご活躍を期待しています。

ナノ解析物質設計学講座（物質科学専攻）

『ナノ顕微分光物質科学グループ』

未来材料・システム研究所 『高度計測技術実践センター 電子顕微鏡計測部』

5200/5137

◎武藤 俊介, 大塚 真弘

透過電子顕微鏡(TEM)に様々な分光手法(EELS, EDX, WDX, CL)を組み合わせたユニークな複合分光電子顕微鏡や情報統計学に基づいて重要な情報を取り出す統計的データ解析技術を駆使し、「実用」材料に使える真に役立つ分析の開発・応用を進めています。最近では国際共同研究によって世界最高分解能の磁気モーメント測定法を開発し、その実用化に取り組んでいます。“分析”科学で終わらずに「材料科学」をターゲットに、次世代・次々世代の実用“材料”の技術革新へと繋がる研究を目標に日々努力しております。

「卒業生の皆様へ・・・」

今年度はM2：3名, M1：2名, B4：2名とスタッフを合わせて総勢9名のメンバー構成になりました。今年は工学部の改組で大きな変化があり、長年お世話になりました量子エネルギー工学教室を離れ、工学研究科物質科学専攻所属(学部は工学部物理工学科所属 ※旧物理工学科とは異なります)となりました。新専攻では、ナノ解析物質設計学講座・ナノ顕微分光物質科学グループという名称で4月より再スタートしました。新しい環境でも研究・教育共により一層の努力をして参りたいと思います。研究室の場所等は変わっておりませんので、卒業生の皆様には名古屋近辺にお越しの際は是非お気軽にお立ちより頂きたく存じます。

会員の声

着任のご挨拶

井戸 毅

平成 29 年 4 月の工学部・工学研究科改組に伴い、工学部エネルギー理工学科及び工学研究科総合エネルギー工学専攻で客員教員としてお世話になることになりました。井戸毅と申します。核融合科学研究所に所属しています。

私は工学研究科旧エネルギー理工学専攻の 1 期生として入学し、その後も客員研究室の一員として携わってききましたので、改組でエネルギー理工学専攻が無くなったのは少し寂しいものがありますが、心機一転、新専攻でもこれまで以上に頑張っていきたいと思っております。よろしくお願いたします。

本籍の核融合研の方では、大型ヘリカル装置(LHD)において磁場閉じ込めプラズマ中の熱輸送、粒子輸送に関する実験研究と、その実験を進めるための計測器開発を行っています。担当している計測器は 3MV 静電タンDEM加速器を用いて加速した重イオン(Au^+ または Cu^+)を利用する大掛かりなもので、この計測器に用いるための検出器やビーム制御システムを、ああでもない、こうでもない、学生と議論しながら開発しています。ただ最近、加速器の老朽化のため、開発より修理に費やす時間が多くなってきているのが悩みの種です。

LHD では今期の実験から重水素を用いた実験が開始され、新しい実験段階に入りました。これに伴い、新しい現象もいろいろ現れてきています。LHD を始め、その他支援装置を用いて学生にとって魅力のある研究環境を提供し、かつ学生の指導を通じて自分もさらに成長していけるよう精進したいと思います。

新任のご挨拶

恒吉 達矢

平成 29 年 4 月 1 日付けで辻研究室に助教として着任いたしました恒吉達矢と申します。ちょうど工学部・工学研究科の改組の年に当たり、同名ですが旧エネルギー理工学専攻の同研究室にて学位を取得し、新エネルギー理工学専攻での着任となりました。理論と実験に次ぐ、新たな手法としての計算科学（数値シミュレーション）の可能性に魅了され、数値流体力学を専門として研究を行っています。

学部 4 年次の研究室配属時より、原子力発電所の系統配管における流れ加速型腐食を背景として継続的に研究を行ってまいりました。熱流体力学分野における数値計算手法を学ぶとともに、大型計算機（スーパーコンピュータ）に関する理解を深めることで、計算精度の向上とより複雑な体系を対象とした計算への拡張を行ってきました。数値計算は、流体の空間的構造や時間発展を解析する上で強力なツールとなっていますが、計算結果の妥当性を保証するためには実験との比較が不可欠です。本研究室では、管内の流動場や壁面の物質伝達を計測する実験が精力的に行われており、共同研究者との議論は研究の方向性をより確かなものとしています。数値計算と実験の相互比較を通して、両者それぞれの問題点を改善し、定量的に一致した結果と複雑流動場における熱・物質伝達現象に関する新たな知見を得るに至っています。

流れ加速型腐食に関する研究では、熱や物質のスカラー輸送が強く働く流動条件について考察してきました。現在は得られた知見を生かし、ホウ素中性子捕捉療法に用いる加速器型中性子源の冷却デバイスの開発にも取り組んでいます。エネルギーの効率的で安全な利用のために、熱流体技術が果たす役割は大きいと改めて実感しています。今後は、気液二相流や流体-構造連成等の工学的により複雑な問題の数値計算にも挑戦し、複合領域の物理現象の解明に臨んでいく所存です。

改組となりましたが、旧物理工学科およびエネルギー理工学専攻の先生方には大変お世話になりました。半ば諦めていた学問の道を、再び歩めるようご助力頂いたこと、深く感謝申し上げます。私自身の稀有な経験を教育の場で生かしていければと思っています。

定年のご挨拶—新たなるチャレンジ

有本 英樹

平成 29 年 3 月 31 日をもちまして名古屋大学を定年退職致しました。この紙面をお借りして名原会の皆様にご挨拶申し上げます。

昭和 52 年に先輩の勧めで名古屋工業大学（名工大）在学時にアルバイトとして名古屋大学プラズマ研究所（名大プラ研）に関わりを持ってから 45 年間、終始一貫して核融合研究分野に携わって来ました。名大プラ研入所当時は見るもの触れるもの全てに感動し不安もさることながら開発・研究への大志を抱いたのをよく覚えています。その所為もあり名工大の大学院も辞退し、アルバイト時代の内田（後の研究所所長）研究室に残り佐藤紘一助手（後の佐藤研究室教授）の指導のもとでトラス型 θ ピンチプラズマ（CCT-II）の研究に携わりました。その後、 θ ピンチは軸対称トロイダルピンチ（STP）研究路線となり装置サイズもステップアップして行きました。私は主としてプラズマ診断に従事し、MHD 計測、光計測、電子密度計測（干渉計）の開発・実験を行いました。干渉計においては、装置のステップアップに伴い He-Ne レーザー、炭酸ガスレーザー、遠赤外レーザー（アルコール、シアン）からマイクロ波まで手がけました。但し実験においては高電圧コンデンサー放電による磁場発生装置での計測であるため、ノイズ対策には徹夜で悪戦苦闘したことを今でも鮮明に覚えています。また、成功した暁には研究室でよく祝杯をあげたことも良い思い出となっています。

日本の核融合研究が黎明期を迎え、名大プラ研が自然科学研究機構核融合科学研究所（NIFS）と名古屋大学プラズマ科学センター（PSC）に形を大きく変えてスタートしたのが平成元年になります。私は新たに NIFS の技術部に籍を置き大型ヘリカル装置（LHD）のデータ処理システム開発検討チームに任を置くとともに準軸対称コンパクトヘリカル装置（CHS）の干渉計開発・実験を担当しました。その傍ら、これまで従事していた逆磁場ピンチ（RFP）装置 STP-3(M) は PSC に引き継がれたため共同研究員として STP 研究に携わっていた所、平成 4 年に助手として PSC に移籍し RFP プラズマの研究と教育に従事する事になりました。平成 7 年に PSC は発展的に改組され名古屋大学工学研究科エネルギー理工学専攻に配置換えになり、併せて原子核工学教室関連講座として学部生の教育にも携わるようになってこの度の定年に至った次第です。原子核工学教室、量子エネルギー工学教室では主として学生実験を担当し、電子回路実験及びプラズマ実験を新設させて頂きました。関係者の方々にはそれなりの評価を頂きましたが、肝心要の受講生においては配属先の研究室でその内容が活かされていないのが少し残念な所です。可能であれば、学生実験期間中の夏休み等において、学生実験内容の理解度を高めるため研究室へのインターンシップもどきの導入も良いのではないかと考えます。

定年後の現在は、渋沢栄一の名言の 1 つ「四十、五十は湊垂れ小僧、六十、七十は働き盛り、九十になって迎えが来たら、百まで待てと追い返せ」の意気込みで定年前

まで在籍していました藤田研究室に非常勤（週一日）として、更に新たなるチャレンジ精神で民間テニスの専属コーチ（週二日）としてこれまでと違った形で過ごしております。

最後に、これまで長き渡り原子核・量子エネルギー工学教室に恩恵を受けたことに対して感謝しお礼申し上げますとともに今後皆様の益々の発展を期待しております。

近況報告

田淵 将人

平成 17 年度に博士課程前期課程を修了しました田淵将人と申します。学生時代は山根研究室（現在の山本研究室）で中性子輸送計算の研究をしていました。就職後は株式会社原子力エンジニアリングにて、PWR の炉心設計や中性子輸送計算コードの開発を行ってきました。そして、卒業から 5 年が経過した平成 23 年 4 月、計算コードの開発を加速するとともに、学術的な観点から中性子輸送計算手法の高度化を進めるため、社会人博士として再び名古屋大学に入学しました。仕事と学業の両立や家庭とのバランスは想像していたより難しく、約 6 年の期間を要しましたが、平成 28 年 12 月に無事に学位を取得するに至りました。ここに至るまでに、量子エネルギー工学教室の先生方、恩師の山根名誉教授、山本教授、遠藤助教には多大な御指導・御支援を賜りました。この場をお借りして心より御礼申し上げます。

近況についてお話しすると、最近の大きなプロジェクトとして高浜 3, 4 号機再稼働支援がありました。このプロジェクトにおける我々の使命は、トラブルなく着実に再稼働を達成することであり、私の役目は炉内の核特性パラメータを計算で予測することでした。準備や現場対応などで大変な局面も多々ありましたが、無事に再稼働を達成することができ、心の底からホッとしています。実は私の出身は福井県の高浜町で、高校卒業までの 18 年を高浜町で過ごしました。私の友人や親戚の多くは原子力発電所関連の仕事に就いていますので、帰郷するといつも「再稼働はいつになるのか」という話題で、みんな再稼働を強く待ち望んできました。そのような背景もあり、今回の再稼働は原子力技術者としての社会への貢献だけでなく、お世話になった故郷への恩返しという意味でも、強くやりがいを感じたプロジェクトでした。

せっかくの機会ですので、プライベートについても近況をお話したいと思います。学位取得後は少し時間に余裕ができたので、地域社会への貢献の一環として、現在住んでいる奈良県王寺町の消防団に入団しました。私が所属している消防団は、基本的には地元育ちの方々に構成されているので、いわゆる「よそもの」は私だけです。また、大卒の団員もほとんどいないため、その観点でも私は少し異質な存在ですが、温かく迎え入れていただいています。皆さん原子力には興味津々で、放射線や原子力安全についてよく質問を受けるとともに、原子力発電の是非について議論をすることもたびたびあります。消防団の活動を通して学ぶこと（消防車や機械の操作方法など）も新鮮ですが、これまで同業界の人間とばかり接してきた私にとって、様々な意見に触れることができるという点でもこの活動を有意義に感じています。

最後になりましたが、今回執筆の機会を与えてくださった編集事務局の方に御礼を申し上げ、私の「会員の言葉」とさせていただきます。ありがとうございました。

核院会便り

平成 28 年度の核院会では例年のように名大祭での研究室紹介，研究室対抗のスポーツ大会等を行いました。名大祭では各研究室が一般の来場者の方々に研究内容の紹介を行い，展示会場は参加者で大いににぎわいました。また研究室対抗のフットサル，ソフトボールを行い，研究室同士の学生の交流を深めることができました。残念ながら，平成 27 年度に行われていたリレー大会は，28 年度は開催中止となりました。各競技の大会の結果は以下のようになりました。各研究室のみなさま，お疲れ様でした。今年度も頑張りましょう。

フットサル大会



ソフトボール大会



お知らせ

1. 名原会ホームページ URL 変更のお知らせ

平成29年4月の工学研究科改組にともない、エネルギー理工学科のホームページが開設されました。名原会ホームページの URL が、以下の通りに変更となりました。

<http://www.energy.nagoya-u.ac.jp/association>

2. 会費納入のお願い（重要）

会員の皆様との連絡を密にとりたいとの観点から、皆様にはお手数をお掛けしておりますが、会費を毎年納入いただく形を取っております。年会費は 1,000 円です。7~8 年ほど前から会費収入が減少の一途をたどっており、このまま行きますと、同窓会活動を継続することが困難な状況となります。納入手続きには、お手数はお掛けしますが、お忘れなく会費の納入をお願い致します。同封の振込用紙にてお振込みください（手数料は名原会が負担）。同封の振込用紙を用いない場合は、下記までお願い致します（手数料をご負担いただくこととなります）。

◎ゆうちょ銀行より振り込む場合

加入者名 原子核工学科同窓会
口座番号 00880-8-79447

◎その他の金融機関より振り込む場合

銀行名 : ゆうちょ銀行
金融機関コード : 9900
店番 : 089
預金種目 : 当座
店名 : 〇八九 店（ゼロハチキユウ店）
口座番号 : 0079447

3. 各種証明書の請求について

卒業・修了証明書等、各種証明書をご入用の際は、直接工学部教務課へご請求下さい。その際には、下記のことを同封してお申し込み下さい。

- 長型 3 号（ほぼ 120×235mm）が入る返信用封筒（切手貼付）
- 厳封か否かの表示
- 学科、卒業年
- 氏名、生年月日
- ローマ字綴り（英文の場合）

4. 名簿記載内容の変更・訂正

随時、名原会名簿の改訂を行っています。記載事項に訂正のある方は、できるだけ全学同窓会の電子名簿管理システムを通じての変更手続きをお願いします。電子名簿管理システムをご利用いただけない方は、名原会ホームページよりFAXまたは電子メール添付用フォームをダウンロードしてご記入の上、名簿担当までお送り下さい。

- ・名古屋大学卒業生等電子名簿管理システム

<https://web-honbu04.jimu.nagoya-u.ac.jp/nual/>

- ・名原会名簿担当者連絡先

担当者： 名古屋大学工学部エネルギー理工学科 遠藤 知弘

メールアドレス： t-endo@energy.nagoya-u.ac.jp

FAX： 052-789-3608

5. 宛名ラベルの提供

宛名ラベルの提供を有償で行っております。ただし用途は同窓会あるいは学科、研究室に関する活動に限ります。費用につきましては人数等で異なりますのでご相談下さい。

6. ニュース掲載記事募集

勤務先や住所変更等、また催し物などについて会員にお知らせしたい方は名原会までご連絡下さい。年に1回の発行ではありますが、名原会ニュースに掲載してお知らせいたします。

7. 個人情報の取扱いについて

名原会会員の個人情報の取扱いに関し、下記の項目をご確認下さい。

○登録の個人情報は下記の目的に利用します。

- ・会員名簿への掲載（工学部・工学研究科，全学同窓会も含む）
- ・本同窓会（工学部・工学研究科，全学同窓会も含む）からの各種通信文書の送付（会誌・同窓会関連行事案内等を含む）
- ・その他，会則に定める事項の遂行に必要と判断された諸事業

○会員名簿作成における自己情報の提供は任意です。

氏名以外で、名簿掲載を希望されない内容がございましたら、その旨、会誌「名原会ニュース」に記載されている問合せ先までご連絡下さい。なお、ご連絡のない場合は、内容に変更ないものとして名簿に掲載いたします。

○登録の個人情報は、委託先も含め機密保持には万全を尽くします。また、登録の個人情報は学校・同窓生以外の第三者へは開示いたしません。

○自己情報を照会したい場合は、会誌記載の問合せ先までご連絡下さい。ご本人と確認できた場合に限り開示いたします。

8. 原子核工学教室・量子エネルギー工学教室『五十年誌』の配布について

平成28年12月に開催された教室50周年記念式典では、これに合わせて発行した『教室五十年誌』をご参加いただいた皆様にお配り致しました。多少の残部がございますので、入手をご希望の方は下記連絡先までお問い合わせください。なお、残部に限りがございますので、お申し込み多数の場合は先着順と致したく存じます。

『五十年誌』では、「三十年誌」以降の教室の20年間について振り返るとともに、教室の今後の発展に向けて各界からご寄稿いただいています。

問合先: 五十年誌編集委員 (森泉)

電話: (052)789-4677, FAX: (052)789-3782

email: moriizumi@nagoya-u.jp

会計報告

平成28年度 会計報告

収入

会費	249,920	(振込時手数料差し引き済み)
繰り越し	228,694	
計	478,614	

支出

ニュース発行		
および発送	239,117	
卒業生との集い	24,000	(懇親会費)
(小計	263,117)	
来期繰り越し	215,497	
計	478,614	

編集後記

前身学科の創設から数えて51年目の今年、新たな体制でエネルギー理工学科がスタートしました。「エネルギー」という社会の持続的な発展に不可欠な課題に対して、学生がチャレンジする志を抱き、また、その課題を解決できる力を培って巣立っていきけるように、教職員一同努力していこうと思いを新たにしています。同窓生のみならず、皆様からのご支援・叱咤激励をよろしくお願いいたします。(小島 康明)

現役員

会 長	相良 明男	(昭和 49 年卒, 核融合科学研究所)
副会長	曾田 一雄	(昭和 52 年卒, 名古屋大学)
	有田 裕二	(平成元年卒, 福井大学)
幹 事	瓜谷 章	(昭和 59 年卒, 名古屋大学)
	柴田 理尋	(昭和 63 年修卒, 名古屋大学)
	柚原 淳司	(平成 3 年卒, 名古屋大学)
	森泉 純	(平成 3 年卒, 名古屋大学)
	小島 康明	(平成 6 年卒, 名古屋大学)
	伊藤 高啓	(平成 6 年卒, 名古屋大学)
	杉山 貴彦	(平成 7 年卒, 名古屋大学)
	渡邊 将人	(平成 7 年卒, 中部電力株式会社)
	渡辺 賢一	(平成 10 年修卒, 名古屋大学)
	富田 英生	(平成 14 年修卒, 名古屋大学)
	遠藤 知弘	(平成 14 年卒, 名古屋大学)
	平尾 茂一	(平成 15 年卒, 福島大学)
	林 裕晃	(平成 17 年修卒, 徳島大学)
	小川 智史	(平成 21 年卒, 名古屋大学)
	恒吉 達矢	(平成 24 年卒, 名古屋大学)

名原会・名原会ニュース・名簿に関する問い合わせ先

〒464-8603 名古屋市千種区不老町

名古屋大学工学部エネルギー理工学科 名原会

TEL 052-789-2572 (小島康明, 全般)

e-mail y-kojima@energy.nagoya-u.ac.jp

TEL 052-789-3606 (遠藤知弘, 名簿関係)

e-mail t-endo@energy.nagoya-u.ac.jp

エネルギー理工学科事務室

TEL 052-789-3399 (道脇みやび)

FAX 052-789-3225

教室ホームページ <http://www.energy.nagoya-u.ac.jp/>

名原会ホームページ <http://www.energy.nagoya-u.ac.jp/association>